21世紀の担い手たちの

成人おめでとう

門出を祝福

一月十五日、成人の日――横芝町で、この日晴れて大人の仲間入りをしたのは、二二〇名（男一二二名・女九八名）。式典会場となった文化会館は、背広や晴れ着姿の新成人たちであふれ、華やいだ雰囲気につつまれていました。

式典では、初めに佐瀬町長が「成人おめでとう。二十一世紀は君たちが主役。若い力で積極的に、未来を切り開いていってもらいたい」とあいさつ。

続いて成人を代表して、伊藤政利君が誓いのことばを述べたあと、来賓の方々から、若さに対する期待を込めたお祝いのことばがあり、最後に向後友理子さんがお礼のことばを述べて、式典は終了しました。

出席した一五九名の若者は、大人としての責任を自覚し、決意を新たにしていました。

お礼のことばを述べる向後さん

"はたちの実感"をつかむ

大人としての責任を

はたちになると、大人としての責任が自分の意思とは関係なしにのしかかってきます。これは、一人の人間としての判断・行動が、社会的にも法的にも認められたということです。

法律　社会人として扱われる

法律的には、はたちになって初めて、社会的・法的に一人前の社会人として扱われることになります。具体的に言うと、

■財産の処分・金銭の貸し借り

成人になると、自分の責任でこれらのことができます。

■就職　保護者の同意なしに、職業に就くことができます。

■養子縁組　自分の意思だけでだれの養子になることも、また養子をもらうこともできます。

■結婚　父母の同意がなくても二人の意思だけで結婚できます。

★　☆　★

年金　いざという時に備える

はたちになったばかりなのに、年金の話なんてと思うかも知れませんが、年金はお年寄りだけのものではありません。

年金は、お互いに協力し合って、将来に備える〝貯金〟であると同時に、交通事故など不慮の場合に役立つ〝保険〟なのです。日本に住んでいる二十歳から五十九歳までの人は、八種類ある年金のどれかに入らなければなりません。

会社や役所などに勤めて、厚生年金・共済組合といった年金に加入している人以外の、例えば自営業の人などは、はたちになったとき、自分で手続きをして「国民年金」に加入します。

今まで、どの年金にも入っていなかった人は、はたちになったら「国民年金」に加入しましょう。

◈　◈　◈

選挙　人を見る目が問われる

はたちになると、選挙権が与えられます。わたしたちは、この選挙権を、投票という形で行使することによって、政治に参加します。

ところが、「だれに投票しても同じ」と棄権してしまう人がいます。これでは、あなたの意思は少しも政治に反映されません。

これから手にする一票は、自分の代弁者を選ぶと同時に、代弁者としてふさわしくないと思う人を拒絶する手段でもあるのです。

自分の代弁者にふさわしい人、自分の考えに近い人、信頼のおけそうな人を選んで、その人の行動を見守ってください。